

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 美術教育をととして美術造形に対する憧憬を生涯の目標とし、人生を拓く力、品性溢れる人格を育む — Spread the KONAN-Style —
- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力を育み、生涯にわたって美術を愛し、生活の場において美意識を大切する生徒を育成する。
 - 2 自分にあった進路が発見できる環境を整えて進路実現につなげるとともに、社会人としての責任感や品性を育成する。
 - 3 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化都市大阪の実現に寄与する。

2 中期的目標

- 1 創造的活動の源泉となる基礎学力と言語表現力の養成**
- ・ 生徒に自身の学力プロフィールや将来への必要性を客観的に理解させ、実技教科と同様に普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。
 - ・ 家庭学習強化週間などを通して、学習の大切さに気付かせるとともに学習習慣を身につけさせる指導に取り組む。
 - ・ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通教科においても少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を一層推進する。
 - ・ 学習意欲を喚起するために学力テストを活用し、基礎学力の確実な定着をめざす。
 - ・ 国公立大学進学希望者をはじめとするセンター入試受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
 - ・ 読書活動の充実に加え調べ学習を効果的に採り入れ、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
 - ・ 日本の伝統文化や伝統工芸とともに世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びや体感をとおして幅広い教養を身につけさせる。
 - ・ 造形科の合評とともに普通教科においてもプレゼンテーションや相互批評を行うなど、常に工夫と研究を重ねてコミュニケーション能力と言語表現力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を実践させる機会を積極的に設ける。
- ※ 生徒による授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に、興味・関心をもつことができたか」について、肯定的回答 80%維持を目標とする。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成については、卒業時にはすべての領域の生徒がボードや映像を活用してプレゼンテーションを行える ICT 機器の活用力を身につけさせ、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。
- ※ 生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いにたたえ合えることができる力の醸成を図る。
- ※ 教員の指導力向上のため校内研修を充実させる。
- 2 将来展望がもてる進路指導の実現**
- ・ 生涯にわたる美術造形とのかかわり方や広い視座による将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につなげていく志や力を育てるため、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
 - ・ 早期からガイダンスを計画的に実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行う。
 - ・ 国公立大学(美術系等)や難関私立美大進学を実現につなげる進路指導体制を整備する。
 - ・ 進路指導の指標として、自から選択した進路希望の達成・満足度、役立った進路情報等に関するアンケート調査を実施し、満足度が 90%となるよう努める。
 - ・ 卒業生の大学入学後の状況を調査し、社会とのつながり、接続等を研究し、進路指導等に活用する方策を検討する。
 - ・ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに社会人としての基礎力を養成するため、部活動への積極的な加入をすすめる。
- ※ 美術系大学等への進学者の入学後状況の調査・研究を、大学等への進学後に退学することのない進路指導(手法・内容)において平成 28 年度にも活用する。
- ※ 改善を重ねてきた部活動加入者数(入部率 110%)や高校展等への出品者数(1,2 年生の出品率 50%)が減少しないよう取組みを継続し、現在の水準を維持する。
- 3 美術造形教育センター校としての役割**
- ・ 大阪の美術教育の振興に貢献するため本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、校種をこえて小・中学校の教員向けの実技研修会を実施する。
 - ・ 校外における生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HP の充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
 - ・ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等へ積極的に参加させ、生徒に発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。また、地域をはじめとして大阪や全国にも本校の存在感を示していく。
 - ・ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実を図るとともに、国際情勢を見つ海外研修旅行の実施に向けて取り組む。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者数は、100 名以上の水準を維持・発展させる。
- ※ 海外、国内の作品に触れる機会を設けることにより、創造的活動を通じて国際理解教育の推進を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒、保護者ともほぼ昨年と同様の回答結果となった。国際理解に関する項目は肯定的回答が 60%を下回るが、全体的に高い評価を受けていると思われる。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 言語表現力の養成の観点から「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定的回答に注目しているが、微増の 76%にとどまった。しかし、1 年生の増加率が高いことから、今後学年の進行とともに学校全体の改善につなげたい。 ・ 国際理解については、他の項目に比べて生徒の肯定的回答が 51%、保護者が 62%と低い数値となっている。昨年度はテロの影響で海外研修を中止し、今年度は今回の診断調査が終わった後で台湾への海外研修を行ったことから、印象が薄かったと思われる。来年度以降は、今回の台湾研修で姉妹校提携を結んだ学校との交流を一層進めるなど考えたい。 <p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災避難訓練を 2 回実施し、火災のみならず津波避難の訓練も行ったにも関わらず、肯定的回答が生徒 68%、保護者 76%と低い数値となっている。今年度は全国で地震被害が発生し、危機感が高まっている結果だと思われる。災害対応マニュアルについて平成 29 年度中に再構築するよう検討を進める。 ・ 教職員による「学校運営に教職員の意見が反映されている」が 63%にとどまり、今後教職員の意見反映ができる具体策を講じる必要がある。 	<p>【第 1 回】 6 月 22 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の考えも認め、互いにたたえ合えることができる能力の醸成ということについては、相手を批判することがいけないということではなく、批判を受け入れる・理解することも含めて、高いディベート力の育成をめざしてほしい。 <p>【第 2 回】 10 月 26 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学でも外部講師を招いた講演会などで学生に意見や質問を求めても、ほとんど発言できない現状がある。大集団の前でも発言できるような能力育成が望まれる。 ・ 小・中学校教員向け実技研修会については、小学校では図工の先生が必ずしも専門ではないことから、誰でも取り組めるような内容や、道具のメンテナンスなど基本的な内容を取り上げることで、参加率も上がるのではないかと。 <p>【第 3 回】 2 月 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災については、3 月末までに地域の力で学校付近に防災スピーカーを設置することになった。 ・ ICT 教育については、パソコンなどの導入に加えてランニングコストに相当な費用が必要である。毎年のバージョンアップなど課題が多い。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的 活動の 源泉と なる基 礎学力 と言語 表現力 の育成	(1) 基礎学力・言語表現力の育成 ア 学力診断テストの活用 イ 読書活動の充実 ウ 言語表現力の育成 エ 知的好奇心の育成	ア 学力診断テストを年2回実施し、自己の学力の相対的な状況を認識させるとともに、造形表現力の向上には基礎学力を向上させることが不可欠であることに気付かせる。 イ 調べ学習を積極的に採り入れるとともに、創作活動には読書や鑑賞が重要であることを理解させ身につけさせるため、授業における図書館利用やICT機器の活用を促進する。 ウ 自分の考えを人に伝える言語表現力を向上させるため、生徒間の意見交換やプレゼンテーションの機会を確保する。 エ 日本の伝統文化・伝統工芸、世界の美的文化遺産に対する興味を喚起し、幅広い教養を身につけさせるために知的好奇心を育成する。	ア・学力診断テスト結果 第1回(5月)と第2回(8月)の学習到達度ゾーンの比較を活用する。 (上位ゾーン20%向上 *H27は36%向上) イ・授業の図書館利用やICT機器利用を増やす。 (H27年度比利用率5%増) ウ・学力診断テストにおける国語で重点的に測定。 (下位ゾーン20%減少 *H27は48%減少) エ・外部講師による講座実施回数。(10回程度) ・海外、国内の作品に触れる機会を設ける。 (5回程度)	ア・学力診断テストによる測定結果 4月に比して8月では上位ゾーンの生徒が33.3%増加し、基礎学力の着実な向上が見られた。次年度も基礎学力充実のため家庭学習の強化を進めたい。(◎) イ・授業での図書館利用やICT機器の活用が促進された。次年度も維持向上に努めたい。 図書室及びICT機器の利用状況 5.8%増加(○) ウ・重点的に指標としている学力診断テストによる国語の下位ゾーン人数について、4月に比して8月では40%減少した。次年度も国語基礎力の定着に努めたい。(◎) エ・伝統文化や伝統工芸などの外部講師による講座を12回実施し、生徒の興味喚起を促進した。今後も継続実施に努める。(◎) ・海外研修はテロの影響から行先をイタリアから台湾に変更した。本校としては第一号となる台中市の国立高校との姉妹校提携を行い、意義ある生徒交流が始まった。次年度以降の交流発展が大きな課題である。平成28年度に海外、国内の作品に触れる機会が7回実施。(○)
2 将来 展望が 持てる 進路指 導の実 現	(1) 将来の職業につなげる志や力を身につける ア 高一大・専連携講座や講演を充実 イ 進学希望者講習の充実 ウ 卒業後の状況調査を実施。 在校生には高校から大学等、社会にいたるつながりを考えさせる。 エ 希望した進路が実現できたかを調査をする	ア 大学・専門学校から講師を招いて行う講演会は、「美術造形の学びを将来の職業に生かす」というテーマに基づいて実施する。 イ 進路実現に向けた進路指導体制を構築し、国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施し、年間をとおして受講者の定着を図る。 ウ 卒業後3年後のアンケート調査を実施。卒業生による交流会や講演会を実施する。 エ 卒業時に自分の進路目標が達成できたのかを調査し、生徒の進路満足度の向上につなげる。また、今後の進路指導計画策定の資料として活用する。	ア・講座参加生徒数 (400名以上) *H26/471名 H27/503名 イ・国、社、理、英の通年受講者数 (15名以上) ウ・アンケート回収率 (30%程度) ・卒業生による交流会や講演会開催 エ・希望進路達成率 (90%以上)継続	ア・大学や専門学校の講師による講座は、生徒の知識欲に十分応える内容で、521人が参加した。次年度も意義ある内容で実施したい。(◎) イ・国公立大学・難関私立大学進学希望者対象の講習には、通年で15名の生徒が参加し、学力と進路意識の向上が図れた。次年度も1年次からの意識高揚に努めたい。(○) ウ・アンケートの回収率は23.4% 今後は進路指導が個別の進路決定に役立ったかを調査し、その分析を進路指導の充実に活用することとする。(△) ・社会人として活躍する卒業生の講演会を実施。在校生との活発な意見交換も行き、進路を現実のものとして考えさせる機会となった。次年度も活躍する先輩との交流を進めたい。(○) エ・進路希望達成率は91.6% 進路ガイダンスに加えて、個別指導により希望進路を決定させた上で、進路実現のための講習などを徹底し、ほぼ全員が自分の進路に満足できる結果となった。次年度も造形独特の個別指導とともに、高い理想を持てる進路指導を実施したい。(◎)
3 美術 造形 教育セ ンター 校とし ての役 割	(1) 府立唯一の美術専門学科設置校としての役割を担う ア 小中学校教員対象実技研修会実施 イ 学外展への積極的出品参加を奨励 ウ 学校の専門施設設備の充実 エ 広報活動の充実	ア 小・中学校教員を対象にした実技研修会を大学等と連携して実施する。 イ 高校展や芸文祭等の高校生向け公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品させ、制作意欲の喚起に資するとともに力量や質の向上につなげていく。 ウ 専門施設設備の維持管理に努め、更新と充実に努める。 エ 積極的な広報活動のため、HPの改良に努める。	ア・参加者数の維持 (H27:125名) イ・出品者数の維持 (高校展250名以上) (芸文祭200名以上) ウ・必要な更新の優先順を決め計画的に維持更新を行う。 エ・HPの改定を計画的に実施する。	ア・本校の行事と、中学校の行事が重なる時期であるが、120名の参加があった。次年度も美術教育振興のために意義ある講座開催に努めたい。(○) イ・高校展出品者は261人 芸文祭出品者は210人 強い制作意欲と集中力で、完成度の高い作品ができた。今後も美術造形専生として高い意識で臨ませたい。(◎) ウ・昨年度に購入した短焦点プロジェクターを活用しプレゼンテーションを実施した。今後も必要に応じて危機を増やしたい。 また、校舎の大規模改修に併せて、古い空調を新しいものと入れかえ学習環境を整えた。次年度以降も設備更新のため関係課と調整を続けたい。(○)